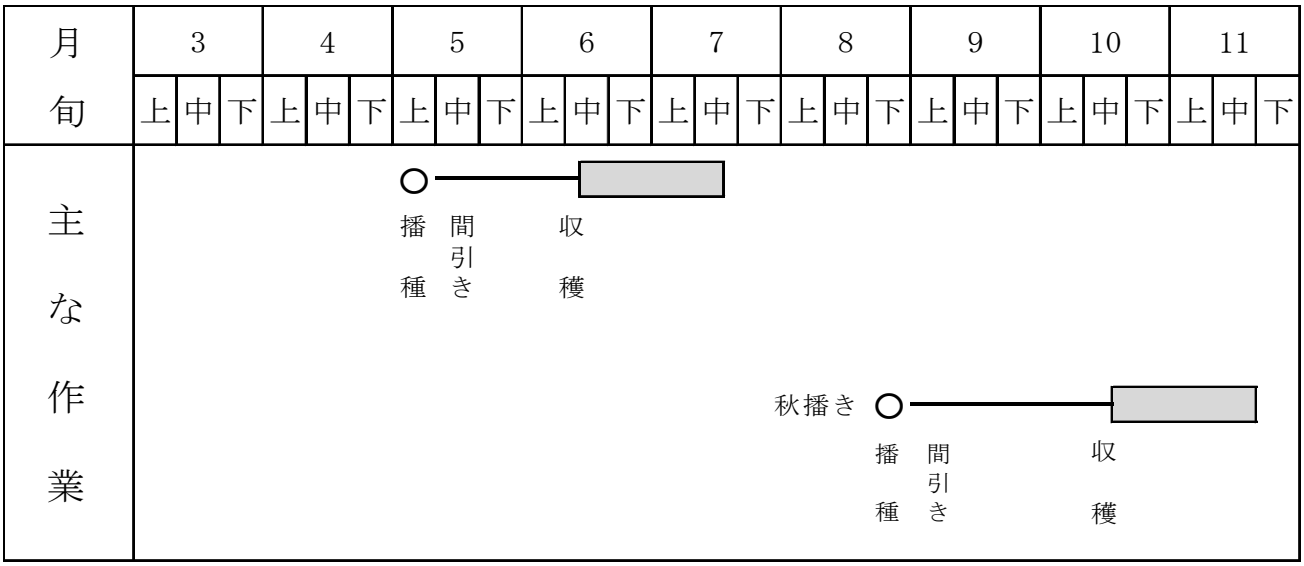
しゅんぎく　　キク科：地中海沿岸

栽培暦



■栽培のポイント

1. 好光性種子であるので、播種後の覆土は薄めに。
2. 堆肥の施用と深耕。
3. 炭そ病、べと病の対策を十分にする。
4. 同一地では二連作以上は避ける。

■品種・種子　葉の切り込み程度により、大葉種、中葉種、小葉種に分けられるが、一般には葉の切れ込みが多く、葉の厚みもある良質な中葉種が好まれる。中葉種の代表的な品種としては、「おびつ」「さとゆたか」「きわめ中葉」「株張り中葉」がある。種子量はａ当り春播き 1～1.3ℓ、秋播き 0.8～0.9ℓ。

■播種準備

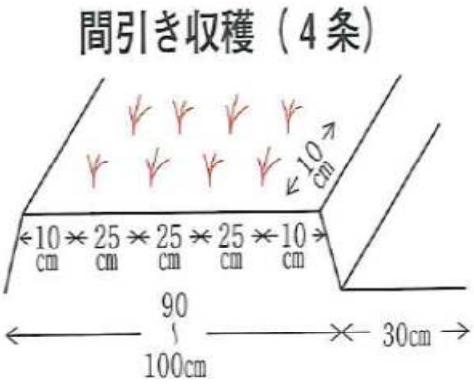
施肥　しゅんぎくの栽培土壌は、できるだけ膨軟で保水力のあることが望ましく、この意味でも堆肥の施用が必要である。また、酸性に弱いので、ｐH5.5 以下であれば石灰を施して強制する。堆肥、苦土石灰は播種 2 週間前に全面散布してから 30 ㎝の深さに耕起する。その後、化成肥料を全面散布し、よく混和する。

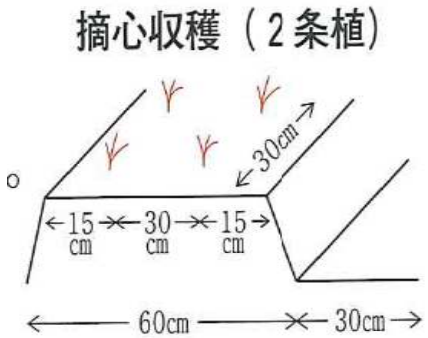
うねつくり　うね幅 100～120 ㎝、通路 30 ㎝、高さ 10 ㎝ぐらいの播きうねをつくりうね面を平らにならす。

施肥例　　（a 当り）

肥　料　名	基　肥	追　肥	備　考
完熟堆肥	200kg	―kg	成分量
苦土石灰	15	―	窒素　2.0 kg
苦土重焼燐	2	―	燐酸　1.8
ホーソ入りそさい 2 号	12	―	加里　1.6
燐硝安加里 S604	1.5	1.5	

うねつくり





■播種　播き床に 25～30 cm間隔の 4 条播きとする。各条に浅い溝を切り、そこにむらなく種を播く。播種後の覆土は、好光性種子であるため薄めにする。また、土が乾いていると発芽が悪くなるので種播き前後には、十分かん水することが大切である。ただし、夏播きは予め浸漬し、白根が出るくらいに芽出しして、播種した方が発芽は揃う。

■播種後の管理

かん水　発芽が揃うまでに時間がかかるので、乾燥しないように適宜かん水する。また、生育が悪い場合、葉色が薄い場合には、液肥の 500 倍を追肥を兼ねて行うと良い。

間引き　根付け取り収穫の場合は、本葉が 2～3 枚時に 3～4 cm、7～8 枚時に 5～6 cm間隔に間引きする。摘み取り収穫の場合は、本葉が出かかった頃に 2～3 cm、本葉 4～5 枚時に 8～10 cm間隔に間引きする。

■病害虫防除　かびでは、炭そ病、べと病が問題となる。炭そ病は冬季を除き年中発生するので、発芽揃いの時から発生に注意する。べと病は 9～11 月に特に発生しやすいので、発病初期から防除する。虫害では、ヨトウムシ、アブラムシが問題となる。

■収穫　根付け取り収穫の場合は、本葉 7～8 枚、草丈 15～25 cm未満が適期である。摘み取り収穫の場合は、主枝の草丈が 20～25 cmになったら下葉 4～5 枚を残して摘み取り、順次分けつ茎も下葉を残して収穫する。

収量は a 当り 200 kgである。